

研究課題名	心大血管術後患者の転帰や ADL に及ぼす因子の検討
研究責任者名	広島大学病院リハビリテーション科 教授 三上 幸夫
研究期間	実施許可日 ~ 2028年 3月31日
対象者	2014年1月から2025年3月の間に、広島大学病院心臓外科あるいは循環器内科で心大血管手術を受けられた患者さん。
意義・目的	<p>心臓外科術後は翌日から早期離床をはかり自宅退院し日常生活が自身で行えるようにつとめますが、近年高齢者や合併症などを有する患者が多くなってきており日常生活ができるまでの回復に難渋し転院となる症例も存在します。また疾患や術式によっても術後の離床や日常生活活動の回復に難渋する原因は異なり、開心術（虚血性心疾患、弁膜症）・大血管疾患手術・経カテーテル的大動脈弁置換術、経皮的僧帽弁クリップ術の術式別にその原因を調査したいと思います。疾患別、術式別に日常生活活動の回復に難渋する原因、転院となってしまう原因を把握することで、疾患別・術式別に早期より日常生活活動の回復が行える次施設を見据えた適切な多職種介入、連携をはかることができると考え、この研究を計画しました。</p>
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから調査する項目は以下の通りとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 基本的情報：疾患名、年齢、BMI、性別、合併症、生活状況（何人暮らしか、介護保険有無）、在院日数、転帰（自宅退院、転院、死亡） • 術前後情報：意識レベル（Japan Coma Scale、Glasgow Coma Scale）、ADL（Barthel Index、Katz Index）、骨格筋面積（CTより算出） • 身体機能評価（術前後）：片脚立位、6分間歩行テスト、5・10m歩行速度、Short Physical Performance Battery（フレイルのテスト）、握力、膝伸展筋力、周径（上腕、下腿） • 認知機能（術前後）：Mini-Mental State Examination（認知機能の検査） • フレイル評価項目：身体的フレイル、臨床フレイルスケール、Makizakoらの5つの質問紙、LSA、Lubben Social Network、GDS15 • 術中所見：術式、出血量、人工心肺装着時間、大動脈遮断時間、挿管時間等全般 • 血液検査所見：NT-proBNP、Hb、Cre、BUN、e-GFR、CRP等全般 • 心エコー所見：EF、LAD、LVDd/s等全般 • リハビリ進行度：端坐位・起立・歩行開始日、100m歩行達成日、集中治療室活動度スケール（ICU Mobility Scale） • 術前合併症：脳関連、心臓関連、呼吸関連、脊髄梗塞等全般 • 術後合併症：せん妄有無、嚥下障害合併有無、脳関連、心臓関連、呼吸関連、脊髄梗塞、創部関連 <p>（個人を特定可能な情報は解析に用いません）</p>
共同研究機関	ありません
外部への試料・情報の提供	ありません

試料・情報の管理責任者：広島大学リハビリテーション科 教授 三上 幸夫

利用または提供を開始する予定日：本学における実施許可日（2022年2月25日）以降

個人情報の保護について

試料・情報は解析する前に、氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し代わりに研究用の番号を付け、どなたのものか分からないようにします。

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-5566

広島大学病院診療支援部リハビリテーション科 職名 理学療法士 三尾 直樹